

作成日 平成29年4月27日

サークル名	助け合い隊		発表者	豊胡 明美
			リーダー	豊胡 明美
部署	3階東病棟		サブリーダー	沖土居純子
活動期間	開始：平成27年5月20日 終了：平成28年7月28日		メンバー	永田寛子 田原ルミ子 段田湖雪 加藤美和子
会合状況	会合回数	10回		
	一回あたりの会合時間	30分		
所属長/推進メンバー	加藤美和子	所見欄		
レビュー担当者	永澤 昌 野田 宏美			

テーマ

チーム間の支援体制への取り組み
～チーム間で支援できるようになるために～

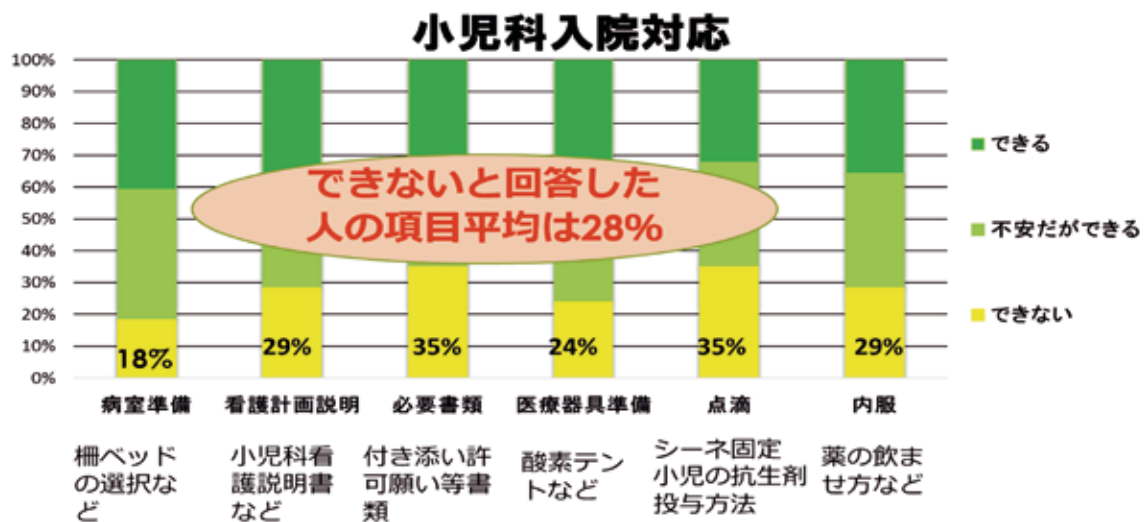
テーマ選定理由

3階東病棟ではチーム間での大きな溝がある。それは、看護師、助産師という職種の違いと、お互いの分野（産科、小児科）を重視するため、互いの分野に必要な看護が習得できておらず、チーム間での十分な支援が行えないため。

現状把握

助産師より、看護師の人数が少ない。今のチーム編成では、Aチームの人数が少なく、業務が回らない。Bチームの支援が必要。

夜勤帯では小児科の緊急入院がある。日によっては勤務内で3人もの入院があることがあり、フリーをする助産師の入院対応が必要。これらの現状を踏まえ、夜勤でフリー業務を行う助産師に、チェックリストを用いて小児科入院対応項目の評価をしてもらった。評価を行った結果、できないと回答した人の項目平均は28%であった。



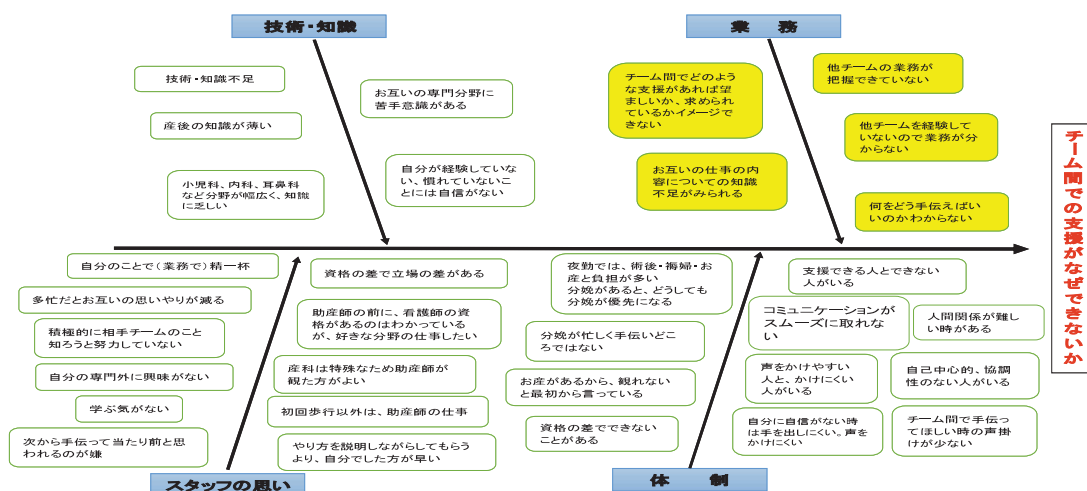
目標設定

チェックリストの小児科入院対応項目の、できない、を撲滅するとした。

要因分の解析

チーム間での支援がなぜできないのか、アンケートを行い、技術・知識、業務、体制、スタッフの思いの4つの要因で分析した。その中で、業務要因に注目し、主要因を、①他チームの業務が把握できていない、②チーム間でどのような支援が必要か、どのような支援が求められているかわからない、の2つとした。

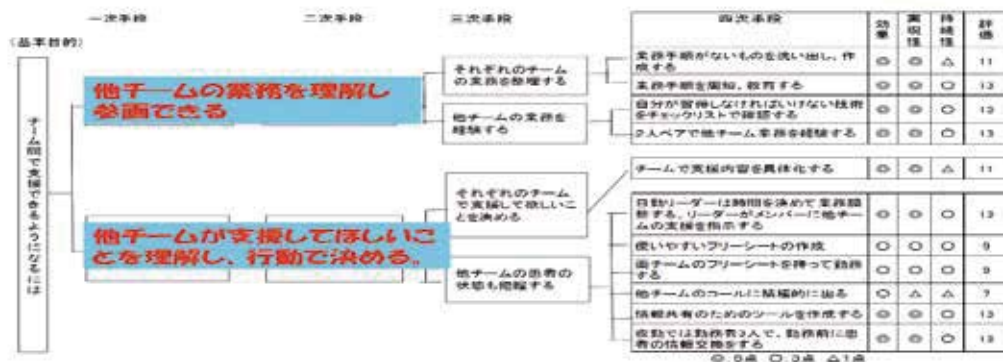
また、要因分析を行う中で、3東病棟の全患者は自分たちの患者という意識やチーム間で支援し合おうという意識の低さを感じ、また、お互いネガティブなイメージを持ち、コミュニケーションをとろうとしていないことが分かり、患者情報を共有しようとする意識が低いことが分かった。このことも要因の1つと考えた。



対策の立案

チーム間で支援できるようになるための対策を、①他チームの業務を理解し参画できると、②他チームが支援して欲しいことを理解し行動ができる、の2つとした。

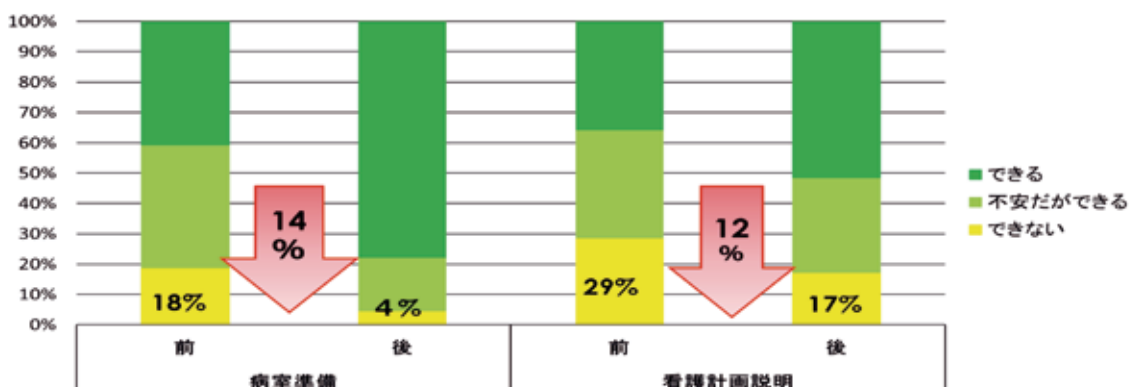
対策①の具体策として、業務及び看護技術手順を作成した。対策②の具体策として、他チームに支援して欲しい業務、他チームに知っていてほしい患者情報は何かを知るためにアンケートを実施した。アンケートの質問項目は、他チームに支援して欲しいこと、ナースコールが鳴った時迷わずにとれる患者情報、夜勤帯で他チームメンバーに知っていて欲しい患者情報の3つ。アンケート結果から、日常生活動作の介助が必要な患者が分かる、介助レベルがわかるフリーシートの作成をした。夜勤帯で患者情報の共有ができるツールを作成した。また、支援して欲しい業務(新生児のおむつ交換・ミルク哺乳について、小児科入院対応について)の勉強会を実施した。



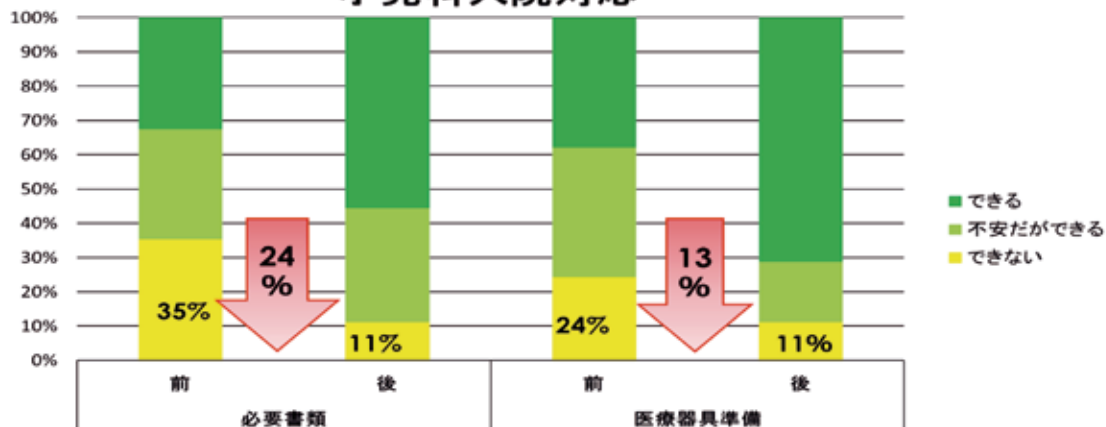
効果の確認

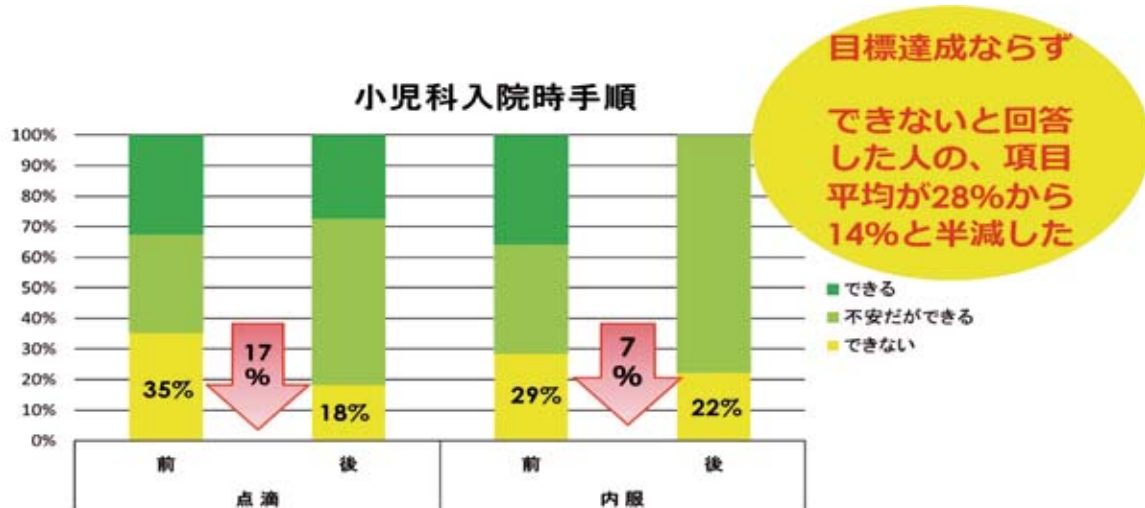
取り組みを行った結果、小児科入院対応の項目でできないと回答した人は、病室の準備では14%、看護計画と説明では12%、必要書類では24%、医療機器の準備では13%、点滴では17%、内服では7%減少した。目標達成にはならなかったが、できないと回答した人の項目平均が、28%から14%に半減した。

小児科入院対応



小児科入院対応





無効効果

対策実施後のアンケートを実施した。アンケートの結果、チーム間で支援体制がとれるようになるには、夜勤帯での患者情報交換の継続。遠慮せず支援して欲しいことを伝える。疾患・看護の知識を深め、他チームとのコミュニケーションを意識する。お互いの患者を十分に把握しきれない中、対応することへの不安はあるが、ナースコール対応は積極的にしていきたい。Bチームは、産科以外のいろんな業務や小児の入院対応ができるようになってきた。この調子でできることを増やしていけたらいいなどの前向きな意見があった。

標準化と管理の定義

項目	何を	いつ	誰が	なぜ	どうする
標準化	病棟マップを用いて情報共有する	毎日	リーダー	患者を把握し、支援し合えるため	共有するv
教育	3階東病棟技術チェックリストを用いて	8月・2月	副師長	自分に必要な知識・技術を確認するため	評価する
	定期的な勉強会	2回/月	リーダー	3階東病棟で必要な知識・技術を維持するため	開催する
	他チームの業務	日々	副師長	他チームの業務を理解するため	他チームで体験研修する
管理	マニュアルの管理	2～3月	リーダー	現状にあったマニュアルにするため	変更のあった看護技術の追加・修正する

今後の課題

3東病棟の入院患者に必要な疾患や看護の知識を深める。チーム間のローテーションによる、看護実践を行う。日々の業務調整をチーム間で行う。まず、リーダーから行動する。今回の活動で得たものを継続し、今後も取り組みを行っていききたい。